平成 28 年度

柏木城跡 発掘調査 現地説明会

1　柏木城跡とは・・・

柏木城跡は、戦国時代の終わり頃に会津蘆名氏が築城した山城で、米沢の伊達氏による会津侵攻を防ぐために造られたとされています。天正 13 年 (1585) の伊達政宗による桧原略取によりはじまった会津侵攻の頃には大塩に城があったとする記述があり（政宗記）、今からおよそ 430 年前頃には存在していたとみられます。

城内には多彩な「石積み」による施設が残されているのが特徴で、中心部の出入口（虎口）や土塁の壁、区画施設など、多くの場所に石積みの遺構がみられます。

【柏木城と米沢路（天正 13 年頃を想定）】

2　発掘調査の目的

北塩原村では、村内に多数残されている戦国期の城館跡や江戸時代の会津米沢街道、鉱山跡などの歴史的な遺跡群を、将来にわたって適切に保存・整備・活用していくために、平成 20 年度から有識者による検討委員会を設け遺跡の検討や活用への助言を得てきました。

平成 26 年度からは、柏木城跡の内容をより詳しく調べるため、北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会のご指導のもと、地権者の方々や地元の皆様のご理解とご協力を得て、発掘調査をはじめました。

柏木城跡は現在、北塩原村指定史跡です。村 で は将来的に県・国の史跡指定を目指しており、調査に関して、県教育委員会文化財課・文化庁のご指導も受けています。

3　平成 28 年度 発掘調査の成果

☆平成 26 年度の主郭 (区画 A) 第 1 トレンチに続き、主郭区画 C とする地区で発掘調査を実施しました。

☆主郭第 2 トレンチでは、方形炉跡 2 基・焼土 2 基など、火を焚く個所がまとまって検出されました。出土品は中世のものとしては、瀬戸陶器丸碗や釘などが出土しました。ほかには近世以降の陶磁器・銭貨などがあり、時期は不明ですが黒い石と白い石も多数出土しました。碁石の可能性があります。

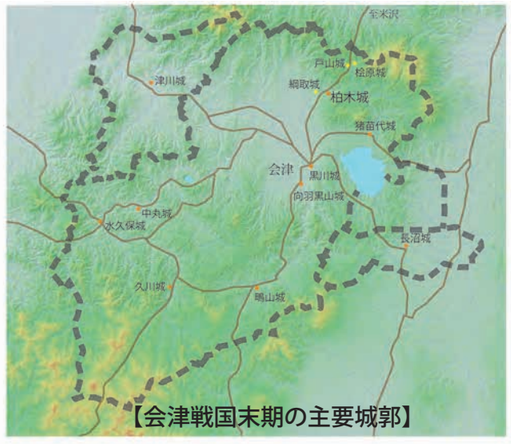
⇒白い石は、白色珪石を砕いたものです。よく似た石が桧原地区金山集落の周辺で採集できます。

☆主郭第 3 トレンチでは、掘立柱建物跡 1 基 (SB02) が検出されました。区画 A の SB01(H26 調査) に続き、2 例目となります。

☆主郭第 4 トレンチは、櫓台と呼ばれる箇所を調査しました。石積みと石列を組み合わせたもので、石積みを前後に配して、高さのある石積みを作っていた可能性があります。

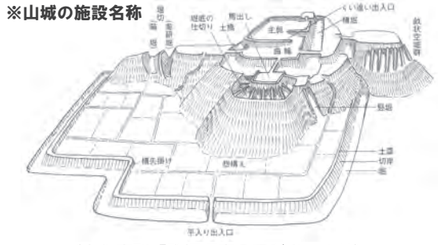
⇒柏木城跡主郭周辺ではこれまでにも多様な場所で多彩な石積み施設が確認されています。櫓台の積み方は、新たな積み方の確認となりました。

蘆名氏関連の山城は会津に多数残されていますが、伊達氏・蒲生氏・上杉氏などに改修されていることがほとんどです。柏木城跡は、そうした改修はないと想定されることから蘆名氏本来の築城技術、石積みの技術、築城の考え方を示す貴重な遺跡であり、天正期後半南東北の城郭における基準となりうる点で重要な史跡であると評価できます。



【会津戦国末期の主要城郭】

※山城の施設名称


（文化庁刊『発掘調査のてびき』より）

※「築石」（石垣の積み石）の内側に裏込め石があるものを「石垣」、ないものを「石積み」という見解にしたがい、柏木城跡のものは、現在、「石積み」と呼んでいます。

北塩原村教育委員会　　《平成 28 年 11 月 6 日》
北塩原村大字大塩字下六郎屋敷 2134 番地　0241-23-5236

《柏木城跡は私有地です。見学の際はマナーを守りましょう。》